

キャラクター名

宵崎奏

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ハヌマーン		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	
	オプショナル		年齢		性別	
覚醒	探求	衝動	解放		初期侵食率	32%
出自		経験			邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	1	0			2	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	2	0	0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

プレイヤー名

UGNチルドレンA	カヴァー	
	性別	
	邂逅	

UGNチルドレンA	カヴァー	
	性別	
	邂逅	

精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正
R C	1		交渉		
意志			調達		
知識：			情報：UGN	1	
知識：			情報：		
知識：			情報：		
知識：			情報：		
知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：0		合計回避：0		0	
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	タス	消費
触媒	P	N			
父	P 慕情	N 猜疑心			
まふゆ	P 友情	N 憐憫			
岡崎朋也	P 好意	N 不安			
	P	N			
	P	N			
	P	N			

最大財産P:	4	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
戦術	5	6	セット	視界	シーン選択	自動		
効果：R中のメジャー判定ダイス+LV								
援護の風	5	2						
効果：1 R1回 判定ダイス+LV個								
ウィンドブレス	3	2						
効果：達成値+LV×3								
生き字引	4							
効果：								
波紋の方陣	5	3	オート	視界	単体	自動	80	
効果：ダメージ適用直前 ダメージLV+1 D ラウンド1回								
空の楽器	1							
効果：								
高濃度酸素バブル	1							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

母親は幼少の頃に他界。
その後父親とずっと二人暮らしだったが……
現在父親は昏倒しており、実質一人暮らし。
父親の職業は作曲家。妻が亡くなった頃から作曲に迷走し始め、日々悩んでいた。
何気ない会話の中で奏に弱音を出してしまったことがきっかけで、奏の才能に気づく。
そして、大好きな父から助けを求められたことで感情が高まり、助けになりたいという思いから人知れず奏は覚醒。
そんな無邪気な奏の思い付きを曲に活かしたところ大ヒット。
曲が売れたことに少しの安堵と、奏の才能への嫉妬と不安が渦巻き焦燥に駆られることになる。
本来であれば父親として奏を褒め、成長を期待する良き父親になったであろう。
しかし、妻の死と奏を守らなければいけないという父親の感情、そして自分が不要となったかもしれないという妄想から心の闇が濃くなっていく。
その際FHより協力の打診。
『あなたの昔の曲を知っている。その才能を見捨てるのは惜しい。私たちなら今のあなたに力を貸すことができる。昔の栄光に……そして娘を導ける作曲家に……なりたくはありませんか？』
昔の彼なら一蹴していたであろう悪魔の誘い、しかし今の彼には抗うことが出来ずに縋ってしまう。
娘の才能もその力のおかげだと話を聞いたせいで希望を見出し、オーヴァードへの覚醒を試す。
結果……覚醒することは成功したが奏の才能には遠く及ばないものだった。
そこで父親に見切りをつけたFHはソラリスの能力により父親を昏倒させ、意識のない父親のもとに奏を案内する。
『我々の治療を行えばいずれ必ず回復できる。しかし、時間がかかる上に法外な治療費が掛かることになる』
『しかし、彼を見捨てるのは忍びない。我々も彼には恩義がある』
『故に、我々の研究の手伝いをしてくれないかな？その報酬として彼の治療と君の生活を保障しよう』
奏はその選択をとるしかなかった。